



【編集・発行/札幌くらぶ】 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付
 メール：infomation@sakkyoclub.net
 ホームページ：http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/

2016.1

73

札幌くらぶのクリスマスパーティー 嬉しい楽員さんとの交流

今年も12月の定期公演の終了後にクリスマスパーティーが開催されました。

定期演奏会前のロビーコンサートでは、クリスマスソングの演奏がトロンボーン四重奏や弦楽五重奏であり、最後は「きよしこの夜」をロビーに集まった全員で歌い、クリスマスの気分が一層盛り上がりました。

演奏会終了後、テラスレストランキタラに会員35名、札幌からは、永井専務理事、市川事務局長他7名の楽員さんが来てくださいました。コンサートマスターの小平さん、田島さん、ヴァイオリンの大森さん、小林さん、土井さん、ヴィオラの物部さん、ホルンの山田さん。大森さんは、「この前のリサイタルのお礼が言いたかったので、ほんのちよつとでごめんなさい。」と恐縮してすぐ帰られました。私たちがファンにとってはそれだけでも嬉しいのです。また、小林さんは、パーティーの終わり近くに用を済ませてからわざわざ来てくださり大感激。皆さん、演奏会終了後のお疲れの中、またお忙しい中、本当にありがとうございます。

上田会長の挨拶の後、コンサート

マスターの田島さんの乾杯でパーティーが始まりました。(田島さんには今回会報のインタビューでもお世話になりました。)乾杯の後には、すぐ楽員さんを囲んで、また会員同士で演奏会の感想やそれぞれの近況など話が弾んでいました。

楽譜支援金贈呈のセレモニーもあり、永井専務理事からご挨拶とお礼の言葉をいただき、また、大平さんからも楽譜支援に対する感謝の言葉をいただきました。今年も楽譜支援金(50万円)を札幌に贈ることができ、改めて会員の皆さまに感謝いたします。

写真撮影やサイン会など和やかな雰囲気の中、楽員さんにコンサートの告知などスピーチもしていただきました。ブルックナーで素晴らしい演奏をしたホルンの山田さんは、皆さんから大拍手で迎えられました。自分ではまだ納得のいかなかったようで、「また、頑張ります。」と宣言していました。

市川事務局長に「来年度の演目のバッハの『管弦楽組曲』の全曲演奏を楽しみにしています。」と伝えると、「今までも単発では演奏していたけれど、全曲というのは初めて。ボンマーさんだからこ

その企画。今から講義が始まっているんですよ。」とのこと。ますます待ち遠しくなりました。

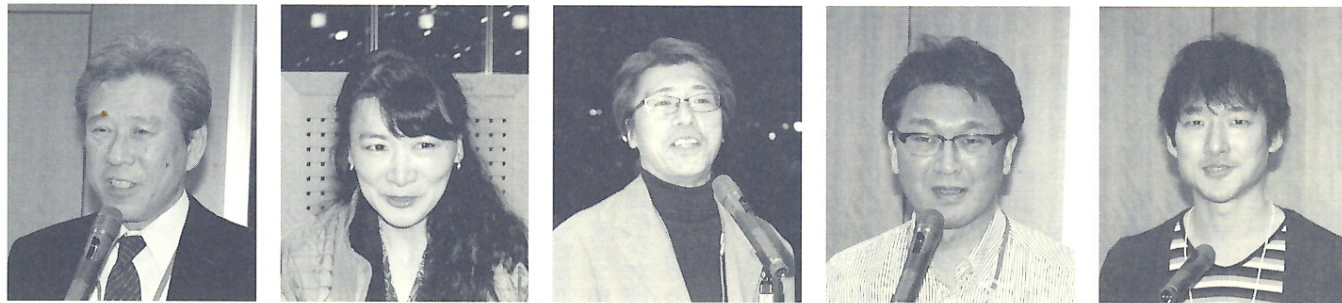
物部さんと土井さんも来年4月のムジカアンテिका・サッポロのコンサートで管弦楽組曲を演奏する予定で、物部さんはなんと指揮に初挑戦とのこと。こちらも見逃せません。

パーティーの最後は恒例のビンゴゲーム。参加した皆さまが提供してくださった沢山の景品の他に、コーチャンフォー(札幌くらぶのデスクの隣でCDを販売している)の高橋様からもビンゴの景品(絵本)を3点も提供していただきました。

大いに盛り上がったところで、残念ながら時間となり、最後は市川事務局長の乾杯でお開きとなりました。

参加した方々が「初めて参加しましたが楽しいですね。声をかけてもらって良かったです。」「今度、ボンマーさんもパーティーに出てくれるといいね。」「あの大平さんとお話できるなんて...」「小林さんと当時住んでいたドイツの話ができて嬉しかった。」「好きな音楽の話が思う存分できて楽しかった。」と口々に話しているのを耳

にし、とても嬉しく思いました。会員同士や楽員さんとの交流の輪が、これからもっともつと広がることを願っています。(定政)



写真上段右から田島コンマス、大森潤子さん、永井専務理事、大平コンマス、下段右から山田圭祐さん、物部憲一さん、土井 奏さん、小林美和子さん、市川事務局長(以上札幌から参加された方々)

2月～4月の名曲シリーズ、定期演奏会

演奏会を楽しく聴くために

八木 幸 三(札幌くらぶ会員)

森の響フレンドコンサート

札幌名曲シリーズ

「躍動するベートーヴェン」
2月6日(土) 14:00
札幌コンサートホール森の響
指揮/尾高 忠明
オーボエ/
金子 亜未(札幌首席奏者)



尾高 忠明 ©浦野俊之



金子 亜未

ストラヴィンスキー

組曲「プルチネラ」

「火の鳥」や「春の祭典」など「原始主義」と呼ばれる音楽で当時の音楽界に衝撃と賛否の嵐を卷

き起こしたストラヴィンスキー

は、ロシア革命を契機に古い西洋音楽の精神と技法へ回帰するといふ「新古典主義」により作風を一変させる。この曲は、そうした傾向の作品で、ロシア・バレエ団の総支配人ディアギレフが、「スターバト・マリエル」の作品で有名な18世紀のイタリア人作曲家ベルゴレージの未発表の草稿を題材にしたバレエ音楽をストラヴィンスキーへ依頼し作曲された。組曲は、声楽曲を除いて再編されている。

R・シユトラウス

オーボエ協奏曲

R・シユトラウスは晩年、第二次大戦終了後ドイツ南部の山荘でひっそりと暮らしていた。そこへアメリカ軍兵士の一団が訪問し、その中にいたピツバーク交響楽団の首席オーボエ奏者ジョン・デ・ランシーが老作曲家にオーボエ協奏曲の作曲を勧めた。シユトラウスは、当初作曲を渋っていたがスイスのバーデンに滞在したのを契機に作曲をおこない古典的ながら明澄な美が調和した名作となった。忽ち緩急の古典的な3楽章構成をとり、全曲は切れ目なく続けて演奏される。

ベートーヴェン

交響曲第7番 op.92

「のだめ」効果で聴く機会の多い第7番は特徴的な弦楽のリズムが、躍動的な楽想を生んでいる。ベートーヴェンは、かつて無いほどリズムについて楽譜に細かな指図を書き込み、テヌートとスタッカートの違いを強調させている。第1楽章などは、ひとつのリズム形を押し通すという斬新さだ。この曲は、そう言った面で舞曲性が強く、後にワグナーが「舞踏の神格化」と言ったことは有名な。札幌交響楽部の峻烈なボーイングが、聴けるかも知れない。さらに第2楽章に象徴されるカンタービレで奏でられる主題が、この作品に劇的な効果を生んでいる。

第586回定期演奏会

2月19日(金) 19:00
2月20日(土) 14:00
札幌コンサートホール森の響
指揮/マックス・ボンマー



J・シユトラウスII

皇帝円舞曲 op.437

(ワルツ王)ヨハン・シユトラウス2世の堂々として、しかも優雅で美しい珠玉の一品が「皇帝円舞曲」。行進曲風のイントロダクションの後、華麗な4つのワルツが舞い踊り、まさに題名に相応しい作品なのだが、特に当時の皇帝に捧げられたものではなく、献呈者は誰もいない。この曲が作られた頃、シユトラウスはウィーンだけで数軒の家を持ち、中には石造りの堂々とした3階建てのものもあり、書斎には小型のパイプオルガンまであったそうだ。まさにシユトラウス自身が皇帝で、この曲は自分への献呈だったのかもしれない。

ラウタヴァー

交響曲第3番(1961)

フィンランドの作曲家ラウタヴァーは、8つの交響曲の他協奏曲、声楽曲、室内楽曲さらにはオペラなど広いジャンルにわたり多くの作品を書いている。現代作曲家として、初期にはセリー主義へ傾倒したが、さほど難解なセリー音楽ではなく、ブルックナーのような極めて明快な音楽をつくっている。交響曲第3番は、作曲家自身が「第1番のロマンティシズムと第2番のモダニズムを統合したような曲」と言っている通り12音技法も使わ

マックス・ボンマー

れてはいるが、壮大なロマン派の交響曲と言った様相があり、シベリウスの交響曲第5番のような北欧の大自然の息吹や、ブルックナー的な色彩を感じることができる。

R・シユトラウス

交響詩「ツァラトゥストラはかく語りき」 op.30

この曲は、スタンリー・キューブリック監督の映画「2001年宇宙の旅」の冒頭で用いられたことで、誰もが知る名曲となった。「ツァラトゥストラはかく語りき」は、いうまでもなく、哲学者ニーチェの著作の名称。「ツァラトゥストラ」は、ゾロアスター教の開祖と言われるペルシアの伝説的人物ツァラトゥストラは、ゾロアスターのドイツ語標記で、ニーチェ自身を象徴している。冒頭、オルガンを含めた重厚な響きが地の底から沸き上がるように増幅され、トランペットが吹奏する荘重な「自然の主題」は、強烈な印象を聴き手に与えてくれる。

第587回定期演奏会

3月4日(金) 19:00
3月5日(土) 14:00

札幌コンサートホール森の響
指揮/ラドミル・エリシユカ

スメタナ/交響詩「シャールカ」

チェコの国民主義音楽の祖とも言えるスメタナは、母国語によるオペラを作曲し愛国的な精神で音



ラドミル・エリシユカ

ドヴォルジャーク

弦楽セレナード ホ長調 op.22

30歳代前半のドヴォルジャークは、ヴィオラ奏者として、また音楽教師をしながら生計を立てていたが決して豊かではなく、さらに教え子だったアンナ・チエルマー・コヴァーと結

婚し、不足がちの糧をオルガニストの仕事も加え補っていた。ところが、1875年に才能があっても貧乏な若い芸術家を対象とした国家奨学金の受賞者に彼が選ばれ、それまでの2倍半に相当する年収を5年間も連続して得ることになる。そんな幸福な時期に書かれたのが2曲のセレナードで1曲目は弦楽合奏用、2曲目が管を主体にした小アンサンブル作品である。弦楽セレナードは、澁刺とした楽想から幸福感とロマン的な雰囲気5つの楽章から溢れ出ている。ショパンのような美しいワルツの旋律が聴ける緩徐楽章が印象的だ。

■チャイコフスキー

／交響曲第4番へ短調 op.36

この交響曲は決して標題作品ではないのだが、チャイコフスキーは、彼の有名なバトンであったメック夫人に手紙の中で、この曲について詳細な説明をしている。第1楽章は、この交響曲全体の精髓、運命(主想旋律)である序奏にはじまり、それは幸福や夢を絶えず妨げる。第2楽章は、仕事に疲れ果てた人の悲哀の楽章で、第3楽章は、酒を飲んで酩酊した時のような気まぐれな唐草模様、第4楽章は、周囲の喜びに満ちた人々の中に入って生きる希望を持つと言うもの。これらの内容は、この作品が書かれた直前の結婚生活の失敗や自殺未遂事件など作曲家の生々しい心情が反映されているようだ。

第588 回定期演奏会

4月8日(金) 19:00
4月9日(土) 14:00
札幌コンサートホールミューズ
指揮/ドミトリー・キタエンコ
チェロ/イエンススリベーター・マインツ



ドミトリー・キタエンコ
©Paul Redaire



イエンススリベーター・マインツ

■プロコフィエフ

／交響曲第1番「長調」古典 op.25

第1次大戦当時、プロコフィエフは寡婦の一人息子だったため兵役を免除され、ペテルブルク近郊の田舎で一人、作曲に励んでいた。この交響曲は、その頃に書かれた作品。ハイドンの技法をもとに「ハ

イドンが現代に生きていたら書いたであろう作品」として、古典の擬作ではあるものの、単に模倣や習作、あるいはパロディではなくプロコフィエフの特徴でもある和声や転調を取り入れながら、「現代人が住んでいる古い町」と評される作品に仕上げている。

■チャイコフスキー

／OPUS主題による変奏曲 op.33

モスクワ音楽院教授でチェリストのウイヘルム・フィッツェンハーゲンの助言を受けながらチャ

第9回JOFCC高崎総会へ参加!

「よく食べ、よく飲み」楽しかったですよ!

第9回JOFCC(日本プロオーケストラファンクラブ協議会)高崎総会は、去る11月21日(土)から22日にかけて開催されました。横浜の会員や仕事を兼ねてまっすぐ参加された方や、富岡製糸工場を見学された方、東京で前泊し東京国立博物館「始皇帝と大兵馬俑」を見た方や「のり鉄」しなからの参加の方がそれぞれの方法で群馬高崎への集合でした。以下報告です! (西川吉武)

富岡製糸工場を見学し、高崎駅に集合し、早速、世界遺産に登録されたNHKドラマ放映された富岡製糸工場を見学し、定期演奏会会場へ到着。昭和36年完成後、高崎市の文化のシンボルとして輝き続けている群馬音楽センターです。JOFCC参加者にとって各地域オケの演奏会も大きな楽しみです。指揮者大友さん、ヴァイオリン諏訪内さん、群馬交響楽団は素

パートリーになっている。

■ラフマニノフ

／交響曲第2番「短調」op.27

交響曲第1番が不評に終わった中、ラフマニノフは神経衰弱を克服しながら、ピアノ協奏曲第2番でグリムカ賞を勝ち取り成功を収める。自信を持ちながらつくり上げたこの曲は、彼の3つの交響曲中、もっとも広く親しまれるようになった名曲だ。全体的にラフマニノフ特有の饒舌さがあり、構成的には息の長い起伏のうちに情緒

的な曲の運びを見せる独特の構成を示し、叙情的にかつおおらかに曲を動かすと言う点で、彼のピアノ協奏曲第2番とのスタイルにおける共通性を感じさせる。ロシア音楽が濃厚に感じられる美しい旋律が、うねるように展開しロマン性に満ち溢れている。第3楽章のクラリネットのメランコリーな音色を聴くと涙腺がゆるんでしまいそうになるのは、筆者だけではないだろう。

(写真協力/札幌交響楽団)

た懇親会はぬくもり一杯のおもてなしでした。そしてスペシャルハプニングで、指揮者大友さんのご挨拶、諏訪内さんが懇親会に飛入り登場です。皆さん興奮気味で、こ

〜わが町のオケの自慢話〜

翌日の総会は、群響さんで歓迎のミニコンが始まり、引き続き4Gに分かれて討論でした。1G18名で多く、時間が少なくなると物足りなく思いました。全員が発言する機会があったことはよかったですと思います。わが町のオケの自慢話が面白いです! やっぱ札幌から進んでいますね!(鼻高) 次年度開催は名古屋に決定し日程は2016年11月を予定しているようです。皆さんにもご案内しますのでぜひ参加を検討してくださいね!



JOFCC第9回総会高崎大会参加者

音楽の素晴らしさを共有したい



プロフィール

桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)、桐朋学園大学にて和波孝繭氏に師事。2001年より3年間札幌交響楽団コンサートマスターを務める。2004年9月よりフライブルク音楽大学にて、ベルリンフィル元コンサートマスターのR・クスマウル氏の下で研鑽を積む。2008年北西ドイツ・フィルハーモニー第1コンサートマスターに就任。ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニーを始め、ドイツ各地のオーケストラで客演コンサートマスターを務めた他、ヨーロッパ各地でリサイタルを行う。2014年9月より札幌コンサートマスターに再就任。

♪ 楽員さんに 興味津津! (8) ♪

♪ コンサートマスター 田島高宏さんに聞く ♪

札幌のコンサートマスターに再び就任した田島さんにお話をうかがいました。前回コンマスに就任した時にもインタビューしましたので、今回はその後についてお聞きしました。この日は10月31日の定期のあとで、チエレストで客演されていた奥様のゆみさんと来て下さいました。

♪ コンマスから留学へ

2001年から3年間札幌のコンサートマスターを務めた後ドイツに留学しました。本当は大学を卒業したらすぐにイギリスに行きたかったのですが、札幌からのお誘いがあったので、いろいろな人に相談したところ、「こんないい話は滅多にないし、3年間はやってみたら」ということになったので、札幌に来たんです。ただこの3年の間に、

レッスンを受けたかと思っていたイギリスの先生が亡くなってしまいました。それでもなお留学したい気持ちが残っていました。その後留学先の先生を探していました。札幌3年目になっても見つかりませんでした。「見つかる時には見つかるものだよ」と周りの人が言ってくれたこともあって、留学先が決まらないうちに辞任することを決意しました。その8月に、たまたま講習会に

ドイツから来ていたピアノの先生からフライブルク音大の先生を紹介してもらうことができました。その先生がベルリン・フィルの元第1コンサートマスター、ライ

♪ ドイツで勉強 フランスで食事

向こうでは日本から来ている人達がたくさんいました。桐朋の先輩後輩も多く、ほとんどドイツ語をしゃべらなくてもいい環境でしたので、言葉を感じるのはかなり遅かったと思います。フライブルク音大でのレッスン

は週に1回でした。聴音やソルフェージュなどの基礎的なことは全部桐朋時代に学んでいたため、そういう授業は取る必要がなかったんです。あとはとにかく自分で練習するだけ。少し寂しかったですね。半年に2回くらいオケに乗ることがあったり、語学学校へ通ったりしていました。とにかく時間は十分にありましたので毎月のように1時間ほどバスに乗って、フランスまでご飯を食べに行ったりしていました。国境を越えるとおなじ食べ物でも味が全然違いますね。ラザニアとか、クロワッサンとか。



ライナー・クスマウル先生と

るフライブルクはドイツ国内でも特に日照時間が長く、山登りやサイクリングには最高でした。

当時街の外れにあるアパートに住んでいましたが、電車がすぐ隣を走っていて、その奥がものすごく広い森。ある時キュッキュツと声があるので小鳥かなと思ったら鹿でした。大聖堂の鐘の音も忘れられません。私は小さい時からカトリックだったので、職がなかなか決まらなかったり、いろいろと苦難が続き、毎週教会に通っていました。日本であんなにお祈りしたことはなかったように思います。

♪ 奥様と運命の出会い

フライブルク音大では24時間練習できるんです。彼女は毎日学校に入り浸って練習していました。私もなるべく学校に顔を出すようにしていたから、お互いに知ってはいたんです。ただ、彼女はせっかくドイツに来たんだからなるべくドイツ人と過ごす、日本人とはちょっと距離を置くという生活をしていました。

ドイツに行くって確か2年目だったかな、彼女と室内楽で共演することがあったんですが、それがきっかけ

ドイツに行くって確か2年目だったかな、彼女と室内楽で共演することがあったんですが、それがきっかけ

てきているようです。

このことについて、ベテランのオケマンに聞いてみたことがあるんですよ。そうすると「若いときには聴かなくても、ある時クラシックっていいなと思うときがきつと来る」って言うんです。文学や絵画もそうかもしれない。ある程度の年になって心にゆとりができた時に、クラシックにも目が向くの

♪ 野球の実況アナウンサー？

ドイツではとにかくいろいろな所へ旅行に出かけました。ウィーンを始め音楽関係の主要な都市にはほとんど行きました。その中で一番印象深かったのはポーランドのアウシュビッツでした。

それからよく歩きました。スペインに「ヤコブ巡礼路」というのがあって、それに続くドイツの道をただひたすら歩く、歩きながら自己対話するのが趣味。暗いですね(笑)

かなとすごく納得しました。

そういう意味で、上田前市長がやってくださった「ギター・ファースト・コンサート」はすばらしいですね。本当にありがたい。子供たちに一度クラシックを聴く経験をしてもらった上で、とびらはいつも聞かれていますから、いつでも来てくださいというスタンスでいいのかなという感じです。

スポーツは本格的にやっていたことはないんですが、小学校までは野球をしたり、サッカーをしたり、親の目を盗んでひたすら外で遊んでいました。徹夜で60キロ歩

♪ 札幌のレベルが高い！

私は本当は40歳ぐらいまで向こうにしようと思っていました。もう一段上のレベルのオケに行きたかったのですが、北西ドイツ・フィルにいながら、いくつもオーディションを受けていました。

札幌に帰ってくる2年前に、一度札幌から声をかけていただいたんですけど、当時在籍していたオケがつぶれる、つぶれないという時でしたので、お断りしたんです。

北西ドイツ・フィルはとにかく忙しかった。ヨーロッパで2番目に演奏会の多いオケでした。1番は阿姆斯特ダム・コンセルトヘボウです。それに別のオケに移ることになりそ

く大会にも出たことがあります。

最近ではスポーツは見る専門。プロレスにハマった時代もありますが、根っからの野球ファンです。中学時代は楽器を練習しながらラジオで野球を聞いていたくらいです。本気で野球の実況中継をするアナウンサーになりたいと思っていました。ドイツには野球がありませんでしたから、インターネットで「一球速報」という動かない画面をリアルタイムで見ながら、試合の様子を想像していました。これまた暗い(笑)

あとはよくご飯を作ります。得意料理は「グヤーシュ」っていうハンガリー料理。スープ、ビーフシチューみたいなやつです。

うもなかったのが、札幌から再度連絡があった時にお願いました。札幌に帰ってきて一番びっくりしたのは、札幌のレベルが非常に高くなっていたこと。中で弾いているとわかるんですが、全然違うオケになっていきますよ、10年前とは。

以前在籍していたところとは、仕事の内容とか、注目のされ方とかも前回とは全然違うの、責任の大きさを感ぜながらやっていきます。その分ちよと息が上がってきているところは正直ありますが、本当にありがたいことで嬉しいことです。こんなに充実した環境の中で音楽ができるのですから。

♪ 日本とドイツのオケ

私自身の中で感じていることなんですけど、向こうの人ってハーモニー(和声)で音楽を感じているように思えます。メロディーのつながりで音楽を感じているのではなくて、和声がどういふふうに進んで行くかということを感じているから、豊かな響きが出るんじゃないか。それが日本のオケと違うかも。たての線がぴしと合っているという意味では日本のオケの方が上手だと思うんですけど、曲にもよりますが、私がコンマスをやる時はなるべくそういうものを感じながら弾きたい。ドイツ語に「ゲニーセン」という言葉があつて、それは「味わう」っていう意味なんですけど、ヨーロッパの人たちは音楽を感じて、響きを味わって弾いているんです。そこが一番大事なところかな。

私たちが味わって弾けば、お客さんにも味わってもらえると思います。そういう意味で定期演奏会もあって本番が2日間もある。一曲一曲をじっくり深めていくことができるのですから。

♪ サロンにも出てみたい

これからやりたいことは、やはり音楽生活をより充実させることです。リサイタルをやるとか、演

奏会をやるとか、この間(10月17日の名曲シリーズ)みたいにソロ

を弾かせていただくとか。実はあの時、アンコールをやるうと思っていたんですけど、2日前に録音してみたら、これは弾かないほうがいいなと思って、それでお礼の



ヘアフォルトのオケの仲間たち

ドイツでは、ベルリンに行けばベルリン・フィルが聴ける、ミュンヘンに行けばミュンヘン・フィルが聴ける、ケルンに行けばケルン放送響か。そういうオケにしたいんです、札幌を。札幌に行けば札幌が聴ける、そういう流れがだんだんできていくように感じますね。「エリシユカさんが振るのなら札幌へ聴きに」とかね。

それからやっぱり、繰り返しになります。弦楽器で5パートもあつて管楽器のそれぞれのパートも、皆

♪ 札幌に行けば札幌を

が同じメロディーをやっていると、ころもあれば全く違うメロディーをやっているところもある。そのすべての音とすべての人が必要で、その一人一人が生かせるように、オケ内でお互いの個性を尊重し合って最大限に能力を発揮できるように空気でありたいとも思います。

和声を意識した響きをつくって、それを味わいながら演奏する。音楽の素晴らしさをお客さんと共有したいです！

インタビューと編集
— 西川・定政・井上・村山・中居 —



フライブルク学生時代、奥様と演奏会

札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業

今度は家族で来ます！

一般財団法人札幌市職員福利厚生会協賛

定期演奏会に招待した中学校の先生や生徒さんから続々とお礼の手紙が届いています。年4回発行の会報では掲載の時期がずれてしましますが、中学生の喜びと感動の生の声をなるべく多く紹介したいと思っています。紙面に限りがありますので、前文や終わりの文を省略するなど編集をしています。ご了承ください。(佐藤・定政)

《第579 回定期演奏会》

7月11日 北辰中学校合唱部

▼とても迫力のある演奏と合唱の立体感のある響きに感動しました。特に楽器と合唱とのコラボレーションは勢いとボリュームのある素晴らしいものでした。後ろの席でもそう感じました。演奏がホールを包むようなもので思わずうっとりしました。

▼私は演奏会というものにあまり行ったことがなかったのですが、今回行ってみて音楽そのものの力に改めて気づき、とても感動しました。聴いた曲はどちらも知らない曲でしたが、聴いてとても驚きました。強弱や音の質は勿論、その高い完成度は並みの練習だけでは手に入らないものを持っていくように思えました。それともう一つ驚いたことは指揮です。最初から最後まで気迫がこもっていて「音楽と一体になる」というのはこういうことなんだと学びました。

唱する人、指揮をする人、皆さん最後まで全力でとても美しい演奏でした。私もこれから美しい合唱を極めるため、日々励んでいきたいと思えます。今度は家族で、「札幌交響楽団定期演奏会」を観に行きます。

▼演奏会では合唱の歌い方について話を聞いて学ぶのではなく、実際にその場で大迫力の歌声を聴くことで普段と全く違う観点から体験する形で学ぶ事ができ、とても良い経験になりました。私たちは普段ピアノかアカペラで合唱をしているのですが、今回の演奏会で皆さんの楽器と合わせながら歌っているのを生で聴き、とても感動して思わず聴き入ってしまいました。

▼合唱は心を一つにして歌っていて素晴らしいです。ソロの方々は一人なのに、柔らかな声が館内に響いていて憧れます。それをまともていた指揮者のマックス・ボンマーさんは、一つ一つのことに心を込めていて素晴らしいです。さらにそんな札幌を支えている札幌くらぶの皆さんがとても素晴らしいです。安らぎのひとときを本当にありがとうございます。

▼このような演奏会に中学生を無料招待されている札幌くらぶの方々の活動は、とても素晴らしいです。この演奏会に行くことで、音楽的な知識や感性だけでなく、ホール内のマナーや演奏を聴く態度など他にもたくさん学ぶ事が出来ました。

▼私はまだまだ上手とは言えない合唱部員ですが、この演奏会に行つて感動し合唱に対する思いが少し変わりました。私たちの席から演奏者までの距離は近く、指揮者の表情や息遣いまで聞こえました。弦楽器の演奏者は動きがそろう感じが初めてです。音楽は一人でも楽しんだ方が好きです。みんなの心を一つにしてお互いの音を聴き合うと聞いている人にも楽しく美しい音楽を作り出せるからです。私たちが聞く人の心が震えるような合唱をしたいです。そのためにも普段から周りのことを考えて行動していこうと思います。

▼オーボエのソロ、すごくキレイでした。弦楽器の音がキラキラに響いてすごいキレイで感動しました。金管は迫力があって、かっこよかったです。また、機会があれば聴きに行きたいです。

▼私はあまりヴァイオリンに興味はなかったのですが、今回の定期演奏会を見て感動しました。弾いてみたいなど思いました。そして自分が今回の演奏会で学んだことは、一曲一曲集中してちゃんと良い音を出そうと思つて吹くということだと思います。これからは定期演奏会で学んだことを生かして頑張ります。

▼自分も吹奏楽で長くて10分くらいの曲しか演奏したことがないのに40分の曲なんて息切れしちゃうなど思いました。どの曲も素晴らしい、聴き入っていました。

▼ロビーコンサートを含めた全ての演奏会を通して沢山のことを学びました。私は今、吹奏楽部でホルンをやっているのですが、特にホルンのソロを聴いているときには今までに感じたことのない感動を覚えました。それと同時に、こんなふうにかきたいという目標を持っています。

▼特にトランペットがとても格好良く感動しました。音がすごく響いていて真つすぐ前にとんでいて、私もあのような音で吹けるようになりたいと思いました。

▼今回の定期演奏会の演奏を聴いて吹奏楽とオーケストラはかなり違うと思いました。吹奏楽はクラリネットの人達が多いのですが、オーケストラはヴァイオリンの方々が多かったので驚きました。けれど沢山の人数で協力するのは、どちらも、緒だと思いました。

▼とてもインパクトがある演奏でした。特に最後の「管弦楽のための協奏曲」がとても良かったです。なめらかで想像しやすい強弱をしっかりとつけていて、とても良かったです。コントラバスの低い音色も良かったです。これからは札幌にエールを送りながら僕も演奏を頑張っていきます。

▼私はあまりヴァイオリンに興味はなかったのですが、今回の定期演奏会を見て感動しました。弾いてみたいなど思いました。そして自分が今回の演奏会で学んだことは、一曲一曲集中してちゃんと良い音を出そうと思つて吹くということだと思います。これからは定期演奏会で学んだことを生かして頑張ります。

▼自分も吹奏楽で長くて10分くらいの曲しか演奏したことがないのに40分の曲なんて息切れしちゃうなど思いました。どの曲も素晴らしい、聴き入っていました。

▼ロビーコンサートを含めた全ての演奏会を通して沢山のことを学びました。私は今、吹奏楽部でホルンをやっているのですが、特にホルンのソロを聴いているときには今までに感じたことのない感動を覚えました。それと同時に、こんなふうにかきたいという目標を持っています。

▼特にトランペットがとても格好良く感動しました。音がすごく響いていて真つすぐ前にとんでいて、私もあのような音で吹けるようになりたいと思いました。

▼今回の定期演奏会の演奏を聴いて吹奏楽とオーケストラはかなり違うと思いました。吹奏楽はクラリネットの人達が多いのですが、オーケストラはヴァイオリンの方々が多かったので驚きました。けれど沢山の人数で協力するのは、どちらも、緒だと思いました。

▼とてもインパクトがある演奏でした。特に最後の「管弦楽のための協奏曲」がとても良かったです。なめらかで想像しやすい強弱をしっかりとつけていて、とても良かったです。コントラバスの低い音色も良かったです。これからは札幌にエールを送りながら僕も演奏を頑張っていきます。

▼私はあまりヴァイオリンに興味はなかったのですが、今回の定期演奏会を見て感動しました。弾いてみたいなど思いました。そして自分が今回の演奏会で学んだことは、一曲一曲集中してちゃんと良い音を出そうと思つて吹くということだと思います。これからは定期演奏会で学んだことを生かして頑張ります。

▼自分も吹奏楽で長くて10分くらいの曲しか演奏したことがないのに40分の曲なんて息切れしちゃうなど思いました。どの曲も素晴らしい、聴き入っていました。

さっしん・札幌クラシック・ポツプスコンサートを聴いて

11月3日文化の日。私と叔母は黄金色のイチョウ並木の中キトラに向かっていました。

いつものコンサートのもりで30分前に着けば良いと思いつく秋の陽ざしを楽しんでおりました。ところが着いてビックリ！

何と4列で入口から裏の玄関をものり過ぎる程の長蛇の列が出来ていました。列をみると年齢層の幅の広さにこれまたビックリ。尾高さんの人気もさることながらクラシックとポップスを気楽に聴けるからなのでしょう。私も尾高さんがどのようにポップスを指揮するのか楽しみでした。

オープニングは虹と雪のバラード。この曲は広い大地と虹と雪、札幌のイメージが浮かぶいつでも何度でも聞きたい曲です。

第一部はドヴォルジャークの「交響曲8番ト長調 Op.98」。私の好きなチェロが主でこの曲は自然交響曲と呼ばれチェロ上の匂いがたまたま曲だそう。チェロと木管楽器によるコラール、荘厳な旋律から自然を巧みに描いた田園風、その後ゆったりした優雅なスケルツォ。トランペットによる伴奏からチェロに戻って情感溢れる独創的な変奏が繰り広げら

れます。初めて聴く楽曲でしたが新鮮で昔過ごした田舎の匂いを感じました。

第二部のポップスは、いきなりのスターウォーズ。壮大な宇宙旅行を想像させます。映画とそのテーマ音楽は密接な関係があり、スターウォーズもこのテーマ曲で映画が生きているとスターウォーズシリーズの構想を考えた監督、ジョージ・ルーカスが話していたそうです。

その後は「アナと雪の女王」「白雪姫メドレー」。それから「ファンタジアメドレー」。これは私も知らなかったのですが、魔法使いの弟子に扮したミッキーマウスと登場したキャラクターがクラシック音楽をバックにバントマイムで物語を進め、美しいアニメーションが融合し人々を魅了している楽曲です。

今回はその中の有名なシーンからJ.S.バッハ作曲「トッカータとフーガニ短調」、ベートーヴェン作曲「田園交響曲」などをメドレーで演奏。ウォルト・ディズニーが常に芸術性の高い音楽物語を作っていた事が分かりました。最後は合唱で「虹と雪のバラード」。中年婦人の心を豊かにさせてくださるコンサートでした。(横山章子)

古典の輝き

一月月に満たないこの短い期間、札幌交響楽団の2回の定期演奏会で採りあげられたピアノ協奏曲によって古典の精妙さ、佇まいの美しさを十二分に楽しむことができた(11月28日はモーツァルトの第25番、12月12日はベートーヴェンの第4番)。ソナタ形式と

ロンド形式に縁どられた格式の高さに古典作品が持つ意味を再認識させられたのである。

傑作がひしめくモーツァルトの作品群において、歌劇とともに一段と精彩を放っている一連のピアノ協奏曲。形式美に加えて、独奏楽器と木管楽器との駆け引き、音色のブレンドの妙は他の作曲家からは得られない最大の聴きどころであろう。僕は昔からそこが何よりも好きだった。K.482、K.488、K.595など、虹色に輝く木管群の間を戯れるピアノのしらべに時として僕は忘我の境地をさまよったものだった。

11月定期のプログラムにのせられた25番K.595はどちらかというともと地味な存在ではあるが、モーツァルトの魅力が随所にたっぷりとちりばめられている傑作であろう。ハ長調という風格満点の調性のもとで浮かび上がった、沈み

込んだりする音符群が心地よかつたし、中庸のテンポにのった独奏ピアノと木管楽器の呼吸が清々しかった。屈指のピアノリストでもあるアシケナージ氏の、古典のツボを心得た音楽の運びが見事であった。

ベートーヴェンの第4ピアノ協奏曲は強烈な自己顕示がともすれば聴く者に息苦しさを覚えさせる作曲家中期の作品群の中で、控えめな爽やかさが印象にのこる佳作である。涼風が心地よく皮膚を刺激するような感触の第1楽章、全体の色彩感覚を抑えた中でピアノと弦楽器の対話が底光りを発する第2楽章、颯爽と駆け抜けるロンドがまぶしいまでの第3楽章。淡々と語りかける独奏ピアノに、形式の美しさを損ねずに、そっと寄り添うオーケストラのドライブが好感度抜群であった。

テンポ・ルバートの大胆な使用が作品に生命を注ぎ込むショパンの作品とはことなり、モーツァルトやベートーヴェンの音楽の醍醐味は作品の様式を守りつつ、ロマンを息づかせることであろう。そのような意味で、年末のふたつの定期演奏会は満足度の高い出会いであった。(村岡範男)

ジャズを聴きに行つて

学生から新入社員時代の頃、「純喫茶」「ライブバー」が流行っていて高額の為、奮発しないと入れなかったと記憶している。

今回ライブバー「JAZZ DUO」の案内をいただき出演者を見てなんと札幌交響楽団トランペット首席奏者の福田善亮氏の名が、粗忽な私です予約なしで会場の「パリーニスカフェギッツ」に、満席でしたのにオーナーのご配慮で入場、実家のすぐ近くにあり興味に思っていた店です、小さなお店はカップル、ファミリーのお客さまはビール・ワインで料理を家庭で味わう雰囲気な演奏が始まりました。

映画「いそぎ」のテーマ曲「The Shadow of Your Smile」封切館では観れませんでした。チャードバートン・エリザベステイラー、主演はアンディウイリアムスだったかと、浪人時代の思い出の一曲です。ギターソロは聴いた事はありませんが、トランペットのソロは初めて感激の開幕です。福田善亮さんの巧みな話術で「今夜は皆さんご存知の曲ばかりを」と伝説的トランペッターチェットペーカーのエピソードも、「愚かなり我が心」「ビューティフルラヴ」懐か

しい時代の曲、持ったグラスはそのままでたはず、聴き惚れていました。ラスト演奏は「枯葉」で幕となりました。今回演奏のキーボードは松本寛之氏松本さんは「札幌ウインドアンサンブル」常任指揮者でジャズピアニスト。短い演奏会ではありましたが、満喫が付けばワインフルボトルは空になっていた。この夜は木枯らしの吹く風も爽やかで帰路に。札幌に「ライブカフェ・バー」等はたくさんあり賑わっているが「純喫茶」は、生きているのか。福田善亮さんについては、札幌くらぶ「会報」33号にインタビュー記事が掲載されています(朽木

さ)。



左から福田善亮氏、松本寛之氏

随想 本棚の隅から 14

昨年夏休みに大阪から懐かしい人が訪ねてきた。昔、我が家の下宿していた彼女は北大のオーケストラでヴィオラを担当していた暇があると私の部屋でピアノを弾いていた。

あの懐かしい日々、東大生のコンサートに一緒に行ったことや、石狩平野をドライブしながら、「こんな景色一生見ない人も居るのに」とつぶやいていたのを思い出す。野イチゴが群生している原野で沢山摘んでジャムを作ったのが楽しかったと彼女は思い出を語る。

仲間のチェロ弾きと結婚したのは知っていたが、その日「夫は今日、札幌の坪田さんと会っているの」と言う、坪田さんは彼らと同年代だったのか…!

こういう時こそ本棚の隅を探せば何か出て来るはずだ、とゴンゴソ、やっぱりプログラムが残っていた、表紙は茶色に白抜きで、クラーク博士の横顔かな？ アモイかな？

北大交響楽団第58回定期演奏会
1979・12・1

北海道厚生年金会館

「海賊」序曲 ベルリオーズ

管弦楽の為の舞曲第三番

川越 守

ピアノ協奏曲第三番ハ短調
ベートーベン

交響曲第一番二長調 マーラー
指揮 川越 守

ピアノ独奏 植田 克己
上田克己さんがゲストだつて!!
楽員の名簿を詳しく見ると、
坪田亮「理1・1」とある。

理類1の1年生だつたのか!
「札幌くらぶ」会報の49号のブ
レイヤーズ・トークに坪田さんが

登場して、札幌北高の出身と知って秘かに親しみを持っていたので、今度は96年発行の同窓会名簿

を引っ張り出してきて、見つけました。(索引があつて便利だ) 勤務先「札幌交響楽団」となっているの間違いなし。

肝心の音楽はどうだったのか全く憶えていないけれど「大きな音を出せば良いものじゃないよなあ」と思った記憶がある。

79年は国立大学の共通二次試験開始、マーガレット・サッチャーが首相に就任、マザーテレサがノーベル賞受賞、NECが「PC-8001」を発表、電電公社が自動車電話コードレス電話サービス開始、パソコン・携帯電話時代の幕開けの年だったのか!

坪田さんの青春はどんなだったのかな? (井上明子)

札幌くらぶ〜北大留学生さんを 札幌コンサートにご招待

留学生さんに札幌交響楽団の演奏の素晴らしさを体感してもらい、札幌における学生生活に潤いを加えて頂きたい。さらに、母国のご家族やお知り合いにも札幌、キタラの魅力を宣伝してもらい、海外から札幌の演奏会を目的に札幌に来ていただければ…と、今回、試行的に北大留学生10名を札幌コンサートにご招待しました。



札幌名曲シリーズに招待した留学生さん (テラスレストラン・キタラにて)

「モーツァルトとチャイコフスキー」に北海道大学国際本部を通じて募集したところ、すぐに10名の定員に達する反響でした。

10名は9月からの新規留学生ばかりで、女子学生が9名、男子学生1名。国籍は中国3名、ベトナム2名、英国2名、タイ1名、米国1名、シンガポール1名でした。

公演後、テラスレストラン・キタラでのお茶会にて感想を聴いてみました。

まずは皆さんそろって「札幌の演奏に感動した。」の第一声。さらに「このような機会をプレゼントされて感謝」また、是非、キタラの札幌の演奏を聴きたい。」他にもこのような機会を望んでいる留学生が多いと思う。」との感想、ご意見などをいただきました。

スタッフの活動報告 (平成27年10月〜12月)

- 札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業実施
10月3日(土) 14:00
石山中学校11名招待
- 会報「札幌くらぶ」第72号発行
10月27日(火) 15:00〜17:30
札幌コンサートホール大会議室
スタッフ11名出席
- 第7回札幌くらぶ運営会議開催
10月27日(火) 18:00〜20:00
札幌コンサートホール大会議室
スタッフ17名出席
- 第8回札幌くらぶ運営会議開催
11月16日(月) 18:00〜20:00
札幌コンサートホール大会議室
スタッフ13名出席
- JOFCC第9回総会高崎大会参加
11月21日(土)〜22日(日)
高崎市(群馬音楽センター、高崎ビュートホテル)
スタッフ、会員10名参加
- 札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業実施
11月28日(土) 14:00
星置中学校44名招待
- 札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業実施
12月12日(土) 14:00
東栄中学校26名招待
- 第9回札幌くらぶ運営会議開催
12月21日(月) 18:00〜20:00
札幌コンサートホール大会議室
スタッフ17名出席

編集後記

◆積読であった「カルロス・クライバー」買った事を些か後悔しつつ読み始めた。天才指揮者の約千ページの伝記である。今のところ指揮者のお仕事と業界事情が良く分かり役に立ちそうである。(YI)

◆冬は辛い! 雪かきが大変で…。無理が利かない体の私は冬は苦手。降る雪に罪はないけど、一気にとっさり降るのだけは、勘弁してほしい。体がもぢません。

◆今冬は、どんだけ降るのやら!(幸)

◆札幌くらぶサロンのミニコンサートも定着してきました。目の前で奏でられる団員さんの音色はとつても素敵です。未体験の方はぜひ一度参加してみてください。面白いお話も聞けますよ。(上野)

◆ある演奏会場で演奏会が終わった、前にいた札幌ボンマーさんが階段の横すみに寄って、足の悪い私をサポートしてくれました。

◆何と自然な所作にボンマーさんの優しさが伝わりました!(よしたけ)